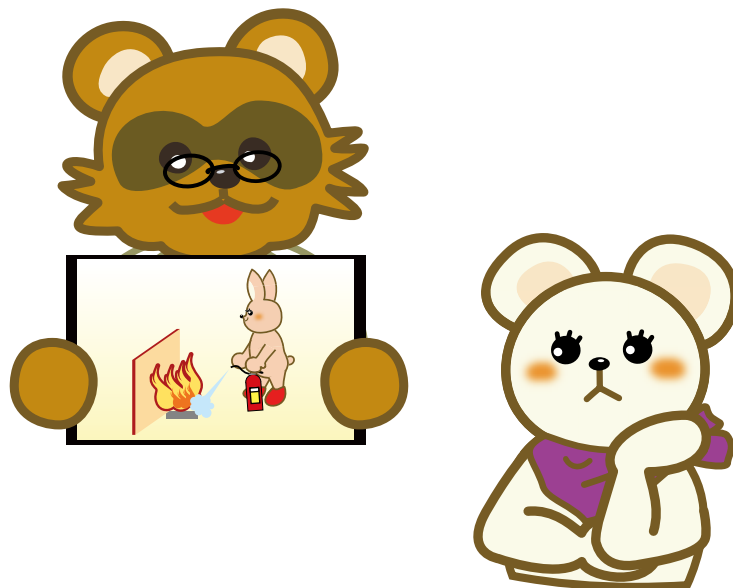
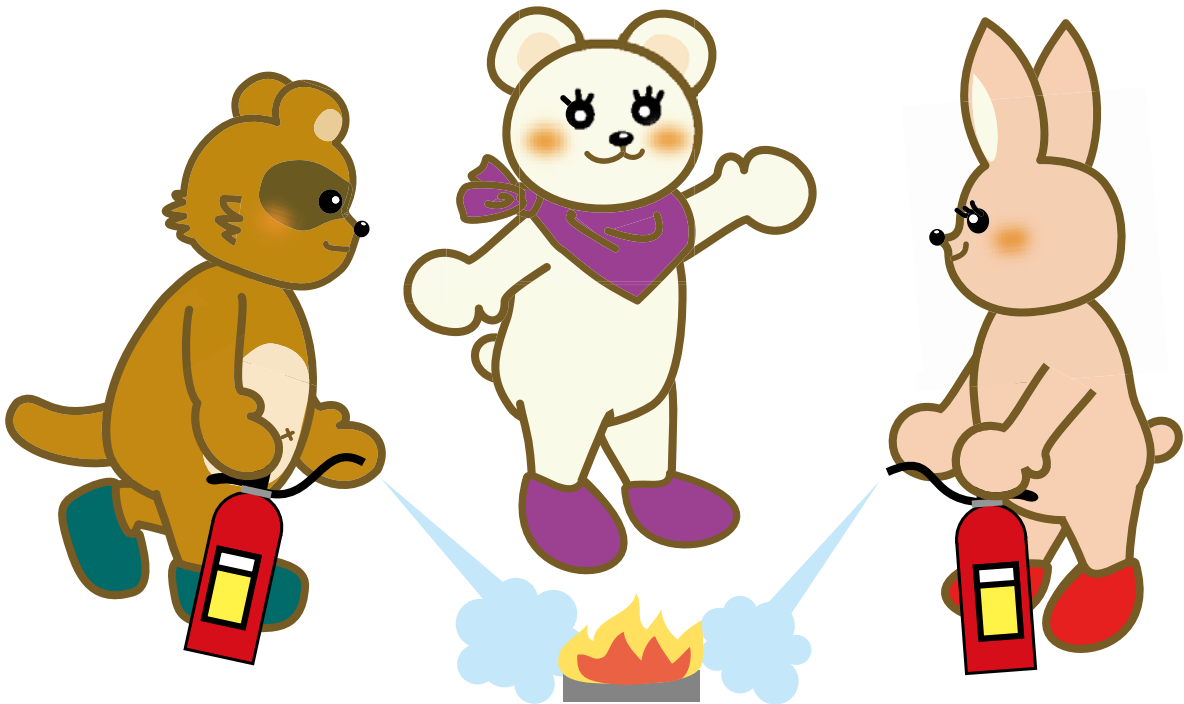


取組内容		具体的な実行方法（解決策）
区民と行政の協働による取組	外国人市民の防災への理解向上	●識字学級において、「そなえる かわさき」（やさしいにほんご版）を教材として採用してもらい、外国人市民の防災への理解を深めていく。
	消防団の取組普及	●消防団の団員増へ向けて、市政だより中原区版やなかはら区民会議だよりで特集を組むなどにより、消防団の取組を広く発信する。
	区内公共施設との連携推進	●区民が区内公共施設と連携した防災訓練等を計画した時は、区役所が仲介するなどにより、区内施設と連携した取組を推進していく。
	小杉駅周辺のマンションの連携推進	●区民が自主的に連携していく取組を区役所で支援していく。
取組の行政の	中原区防災連携協議会の運営	●中原区防災連携協議会の運営を通じて、大型集合住宅の防災や区内私立学校との連携などに取り組んでいく。



実行主体	実施スケジュール				
	25年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	26年 1～3月
区民、行政	関係者と 調整	→	実行組	→	→
区民、行政	手法の 検討	→	実行組	→	→
区民、行政	実行組	→	→	→	→
区民、行政	実行組	→	→	→	→
行政	実行組	→	→	→	→

区民会議で取組報告・検証



(4) 課題解決に向けた取組

「絆を深めて支え合う防災体制づくり」に向けて取組を実践しましたので、ご紹介します。

■ 消防団の広報を市政だよりで行いました

消防団の団員増へ向けて、消防団の取組を広く発信するため、平成 25 年 2 月号の市政だよりには消防団の紹介記事を掲載しました。

掲載された記事では、日頃の消防団の取組を紹介するとともに、実際に消防団で活躍されている方のコメントも掲載するなど、消防団がさらに地域に身近なものになるような内容でした。



市政だよりでの消防団の紹介

■ 識字学習活動日本語学級における防災講座

外国人市民の防災への理解向上に関する取組として、中原市民館で開催されている識字学習活動日本語学級で防災講座を実施しました。

当日は学級に参加していた 37 名に話を聞いていただき、地震がどういうものかを知ってもらうため、阪神大震災の映像を見てもらったり、発災時にすべきことや日頃の備えについて説明したりしました。



防災講座の様子

■ 防災情報コーナーの設置

防災情報を集約した防災情報コーナーを区役所 1 階に約 1 か月間設置し、防災関係のパンフレット等 22 種類を配布しました。

また区役所ホームページに防災情報を集約したサイト「なかはら防災資料館」のページを開設しました。



防災情報コーナーの設置

コラム)「市民提案型事業」について

中原区では、地域社会の抱える課題を解決するため、地域の団体から地域の課題とその解決方法の提案を受け、地域の団体と行政が協働で課題解決に向けた取組を行うことを目的に「中原区市民提案型事業」を実施しています。

この事業では、2つの方法で提案・実施団体を募集します。

A：区民が区民の視点で地域の課題を発見し、行政と協働で解決を図る手法を提案し、協働型事業として実施するもの

B：区民会議など、地域の課題について審議・検討を進めている組織から提案された地域課題に基づき考えられた解決手法について、実践的な解決に向けた活動をする団体を募集するもの

【これまでの事業例】

■ メタルパッチワークを体験

第3期区民会議の審議を受け、中原区役所では、平成23年度の市民提案型事業として、「地域で見守る子育て応援事業」2事業を実施しました。そのうちのひとつがメタルパッチワークです。これは、ものづくりに一緒に取り組むことで参加者同士や家族が絆を深めることを目的として実施した事業です。区役所で毎年行われている「なかはら子ども未来フェスタ」と同時に開催し、未就学の子どもを始め、多くの方に参加してもらいました。参加者同士が話し合って創意工夫しながらものづくり体験をし、子育て世代の保護者同士、子ども同士が交流するなど、地域の絆がより深まっていました。



メタルパッチワーク体験の様子

■ なかはらミュージカルの実施

区制40周年記念事業として、「なかはらミュージカル 水の郷の物語」を実施しました。

公募で集まった5歳から70歳までのキャストが参加し、中原の歴史を題材にしたオリジナル脚本と生演奏で上演された、観客も出演者も思い出に残る本格的なミュージカルでした。



5歳から70歳までが参加した
ミュージカル

2. 検討テーマ2：「子育て家庭と地域をつなぐ人と場づくり」

運営部会の審議では、「中原区は子育て世代が多い。区の子育て支援は充実していると感じているが、それでも多くの方が居場所を求めている」という意見や、「今は小売店で文房具を購入することが減る等、子どもが地域の大人と交流する機会が減っている」「親子関係が良好に築けていない親子に何かできないか」などの意見があり、子育て支援を2つ目のテーマとしました。

(1) 検討テーマの現状及び課題の把握・取組事例

平成25年3月19日に開催された第4回区民会議では、中原区における子育て支援についての話を聞き、意見交換を通して課題を探りました。

1) 中原区の実践

①子育てネットワーク、子ども支援ネットワーク

地域における子育て関係機関の連携を強化するため、区役所と区内で活動している各種団体や子育て関係機関、子育て中の当事者が連携し、地域における子ども・子育て支援の充実を図るためのネットワーク活動を行っています。

就学前の乳幼児を対象とした「子育てネットワーク」では、ネットワーク会議の開催、子ネット通信の発行、子育てグループ支援、子育てボランティア研修、親子コンサートの開催などのほか、地域の子育て関係機関や団体、子育てグループが協働して子ども未来フェスタを開催しています。

また、小学生以上を対象とした「子ども支援ネットワーク」では、ネットワーク会議の開催、子どもものものづくり体験や、中高生によるプロジェクト事業を実施しています。

②子育てサロン

子育て中の保護者と乳幼児を対象に、地域の主任児童委員、民生委員・児童委員、及びボランティアの協力により区内20か所で「子育てサロン」を開催しています。



子育てサロンの様子

親子遊びや季節の行事、保健師や保育士による育児アドバイスも受ける事ができ、子育て中の親同士の情報交換、友達づくりの場としても活用されています。



親子遊びや友だちづくりの場に

③新生児訪問、こんにちは赤ちゃん訪問

看護職員が行う「新生児訪問」、地域の民生委員・児童委員などのこんにちは赤ちゃん訪問員が行う「こんにちは赤ちゃん訪問」を実施しています。

区内の赤ちゃんはどちらかの訪問を必ず受け、親子が地域で安心して子育てに取り組むことができるようサポートしています。

④ママカフェの実施

子育て中の親子がリラックスしてお茶を飲みながらお互いに子育てに関する不安や悩みを語り合うとともに、情報交換や仲間づくりを行う場として、地域のボランティアの協力により「ママカフェ」が市民ミュージアムレストランで行われました。平成24年11月からはスーモ住宅展示場でも実施することとなりました。



お茶を飲みながらのおしゃべり

⑤子育て支援者養成講座の実施

子育てに関して地域貢献を考えている方や実際にボランティア活動を行っている方などを対象にした、子育て支援者養成講座を開催しています。

参加者の経歴に応じて入門講座、ステップアップ講座、フォローアップ講座を実施する他、地域で活動しているボランティアを一堂に会した研修会も開催しています。



たくさんの方が受講しました

2) 第3期の主な取組

■ 子育てアンケートの実施

子育て世代の方々意見や悩みを把握するため、子育てアンケートを実施しました。アンケートは区役所の乳幼児健診を受診するために来所する保護者を対象とし、平成23年10月から12月の間、約500名の方にご協力いただきました。



健診時にアンケートを実施



地域とのつながりや支援ニーズを調査

アンケートは、区役所で実施する乳幼児健診に来る保護者を対象とし、子育てサービス、子育て支援情報、地域とのつながりに関する現状とニーズに関することについて調査しました。

■ 子育てふれあいカフェの開催

平成23年10月21日に区役所本館横のウッドデッキで「子育てふれあいカフェ」を開催しました。このイベントは、地域で子育て中の区民が孤立しないように交流の場を設け、地域とのつながりを深めることを目的としました。当日は、健診を受けた親子に大勢立ち寄ってもらうことができ、音楽ミニライブや幼児食の試食を行い、会場から人があふれるくらいのにぎわいで大変盛り上がりしました。



ウッドデッキでの音楽ミニライブ

■ 地域ふれあいサロンの開催

区役所が実施する乳幼児健診等のために来所する親子向けに区役所ウッドデッキで子育て相談や絵本の読み聞かせを行い、参加者が多くの人とふれあえる場をつくりました。参加者からは、「楽しく過ごすことができた」「こうした交流の場がもっとあるとうれしい」などの意見がありました。



ウッドデッキでの交流の場づくり

3) 課題

準備会議、第3回・第4回区民会議、第3回運営部会で委員から出された審議テーマに関する意見と課題を整理しました。

委員の発言内容	抽出した問題点	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流を行えたら良い。 ・地域で足を運べる場所を確保していくことが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近中原区に引っ越してきた若い世代が多く、地域と関わる機会が少ない。 ・核家族が多く、世代間の交流が少ない。 ・子育てサロンの回数、場がまだ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間の交流の機会、地域で足を運べる場所をどのように設けていくのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンを知っているが、足を運ばない人もいる。 ・サロンに来ない人への支援を考えることが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の場に来ない方が、子育ての支援を必要としている人がいる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンに来ないが支援を必要としている方に、どのように支援を行うのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・商店や工場などを活用して世代間の交流が行えるのでは。 ・企業の協力で土日の育児イベントを実施している他都市の例もあるので参考にしては。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間の交流や子育てイベントなど、子育て支援について、企業が担える役割がある可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援について、どのように企業の力を活用するのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・退職後間もない方が、子どもの面倒を見る担い手としてよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の方は子どもの動きについていけないケースがある。 ・子育てを終えたばかりの方が支援する側になれば良いが、仕事を再開する方や、親の介護をする方も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの面倒を見てくれる方をどのように発掘するのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育を利用するまでもないような短い時間（30分～1時間程度）、子どもの面倒を見てもらえることを地域力で解決できるのが理想。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い時間面倒を見てもらえるような関係を地域の中でなかなか築けない。 ・特に第1子の場合は頼める人を地域の中で探せない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で子どもを見たい人と、見てもらいたい人をどのように結びつけるのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援は民生委員・児童委員が主に担当して地域で活動しているが欠員がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員が欠員の状況がある。 ・民生委員・児童委員のPRが足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で民生委員・児童委員をどのように増やしていくのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の「子育てふれあいカフェ」では、音楽の場とともに、食育としてお母さんたちに煮干しもおやつになるなど発見してただけで、とても良かったのでそのような場が増えると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の中で、母親へ役立つ情報を届ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てイベントと併せて、子育て世代が必要としている情報をどのように提供するのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を必要な人に届くまで発信し続けることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報を必要としている人に情報が行き届いていない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供の方法の検討が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の方もどのように支援の場に参加できるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報を必要とする外国籍の方に情報が行き届いていない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の方に配慮した情報提供の検討が必要。